

令和6年度

学生によるオレンジリボン運動

鹿児島大学 実施報告書



実施主体 鹿児島大学大学院保健学研究科助産学コース 1年

実施内容 大学祭でのオレンジリボンの認知度調査・啓発運動

①事前に取り組んだ内容

授業や調べ学習等において、児童福祉や児童虐待に関する現状やオレンジリボン運動について学習した。私たちにできることとして、「正しく知ること」「啓発活動」「寄付・グッズ支援」等があることが分かった。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

11月16日に開催された学祭にて、当日会場内にいた人たちに対してオレンジリボン運動の認知度調査と啓発活動を行った。認知度調査では、オレンジリボン運動という言葉とその意味を知っているか質問し、「知っている」「知らない」に分けてシールを貼ってもらった。その後、オレンジリボン運動の概要と込められている願い、連絡先や児童虐待防止に向けた様々な取り組みについて周知を行った。

③オレンジリボン運動を終えて…

昨年は、医学部の学祭で同様の運動を実施しており、知っている人は約15%という結果だった。私たちは、医療に携わる人たちが集まる場であったことから、非医療系の人たちよりも認知度が高いのではないかと予想し、今年は教育学部や理学部など非医療系の学部が集約されている本学の学祭でアンケートを実施した。

当日は、310名の方にアンケートを実施した。結果は、310名中オレンジリボン運動を知っている人は57名（約18%）、知らない人は253名（約82%）であった。予想していた認知度の低さは認められず、昨年と今年のアンケート結果からは、医療系と非医療系の認知度の大きな差は認められなかった。

知っている人の中には、学校の掲示版で知った人、ショッピングモールでのオレンジリボン運動に参加して知った人がいた。知らない人の中には、他のリボン運動は知っているがオレンジリボン運動は知らないという人、連絡先は知っているという人がいた。知っている人も知らない人も、ほとんどの方が立ち止まり、熱心に話しをしてくださった。多くの方が児童虐待防止運動を重要だと認識していると実感した。多くの人が見聞きできる場所での周知活動が大切だと感じた。

写真



【鹿児島大学大学院】 <https://www3.kufm.kagoshima-u.ac.jp/ma-chi/josangaku/>